

自然保護の窓

1. 霊長類保護委員会の財政報告

日本霊長類学会発足以来、西田さんと2人で、保護担当理事を2期6年つとめさせていただきましたが、役をおりにことになりました。長い間ご協力下さった保護委員および一般会員の皆さまに、心からお礼申し上げます。

この間、柱の1つにしてきた保護活動費づくりの結果と、保護委員会の収支を、以下に報告します。

〔収入〕

1. 学会本部から	計 1,250,000
(内訳)	
借入れ(物品作製用)	600,000
パンフレット作製費	200,000
屋久島調査費	250,000
活動費(7年間の計)	200,000
2. カンパ収入	841,613
3. 物品販売	1,703,170
収入合計	3,794,783

〔支出〕

パンフレット作製費	200,000
屋久島関係調査費	250,000
テレカ作製費	650,000
絵ハガキ作製費	402,000
リユースラベル作製費	130,000
I P Sへの送金	435,554
マカレナ基金へのカンパ	100,000
宅配便等送料	4,212
下北調査補助	50,000
支出合計	2,221,766

〔収入〕 - 〔支出〕 = 1,573,017円を、新保護担当理事に引き継ぎました。ゼロからの出発で、ひたすら貯める努力をしてきた結果がこの額ですが、今後は、効果的な活用方法を考える必要があります。しかし、この程度の資金は、使ってしまうば

あつという間になくなってしまいます。保護活動を支えるために、今後とも、カンパ・物品販売等にご協力下さい。

2. 未解決の問題のその後の経過

前号で書いたいくつかの問題のその後の経過について、簡単にふれておきます。

1) ニホンザルの有害駆除報告書

有害駆除された個体の報告書の提出は、残念ながら、今年度は、まだ実施されていません。しかし、ニホンザル地域個体群の現状を推察するためには、個体毎の記録をとっていくことは、是非とも必要なことです。なんとか実施にこぎつけるまで、環境庁への働きかけをさらに強化する必要があります。

なお、この報告書(案)について、前号で(別掲)ということになっていたのに、実際には掲載されていませんでした。改めて今号に掲載します注)。

2) 下北問題

タイワンザル問題については、残念ながら進展はありません。

下北半島の新たな問題として、北部のダム建設問題が出てきました。ダム建設予定地は、この地域のニホンザルの遊動域の中で、重要な位置を占め、ここにダムがつくられると、ニホンザルの生活に大きな影響を与える可能性があります。地元関係者と連絡をとりあいながら、北限のサルを守る運動を強化する必要があります。

3) ピグミーチンパンジー問題

日本モンキーセンターが輸入したボノボについては、7月12日現在、まだJMCに収容されていません。

和・西田両理事名の河合雅雄JMC所長に対する「早く返却を実行してほしい」という要望書(5月23日付)に対して、河合所長から「所有権をJMCに移し、ベルギーに再輸出の形で送り返す交渉を通産省に依頼している」旨の回答が寄せられました。返却の1日も早い実現を見守り続けたいと思います。

(日獣医大・和 秀雄)